中部地方

名前

問1　北陸地方において、冬季の降水量が夏季の降水量を大きく上回る要因について説明したものとして、最も適切な内容を選びなさい。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 日本海側を流れる寒流の影響により、冬季に大気が不安定になり、低気圧が停滞しやすくなるため。
2. 冬に吹く湿った北西の季節風が、日本海上で水蒸気を補給し、山脈にぶつかって上昇気流を発生させるため。
3. 年間を通じて吹く偏西風が、冬になると勢力を強め、大陸の乾燥した空気を直接日本列島へ運ぶため。
4. 冬に吹く湿った南東の季節風が、太平洋側から吹き込み、奥羽山脈を越える際に大量の雪を降らせるため。

問2　長野県の諏訪盆地において、戦後に製糸業から精密機械工業へと産業構造が大きく転換した歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 山形県公立入試 類似）

1. 内陸工業地域としての特性を活かし、輸入した鉄鉱石や石炭を原料とする重化学工業の拠点として再開発された。
2. 高度経済成長期に太平洋ベルトに位置する利点を活かして、大規模な石油化学コンビナートが建設された。
3. 豊かな森林資源を背景に、江戸時代から続く伝統的な家具製造が機械化され、輸出産業へと成長した。
4. 第二次世界大戦中に大都市から工場が疎開してきたことを契機に、高度な加工技術が地域に根付いた。

問3　北陸地方を通る北陸新幹線の地理的特徴について、福井駅から長野駅までの各県庁所在地の並びと、その位置関係を説明した文として正しいものはどれですか。（2024年 福井県公立入試 類似）

1. 福井から東へ向かうと富山、金沢の順に県庁所在地を通り、その後、内陸の長野へ至る。
2. 福井から北東へ向かうと金沢、富山の順に県庁所在地を通り、その後、内陸の長野へ至る。
3. 福井から北東へ向かうと金沢、長野の順に通り、最後に日本海側の富山へ至る。
4. 福井から東へ向かうと長野、金沢、富山の順に県庁所在地が並んでいる。

問4　岐阜県の白川郷で見られる「合掌造り」と呼ばれる伝統的な住居様式について、その屋根が非常に急な傾斜になっている主な理由として、地域の自然環境と産業の観点から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 長崎県公立入試 類似）

1. 夏に盆地特有の高温多湿な気候となるため、風通しを良くして熱がこもらないようにするため
2. 台風による強風の被害を最小限に抑えるため、風の抵抗を受けにくい特殊な構造にする必要があったため
3. 冬の豪雪による雪の重みを逃がしやすくするとともに、屋根裏を養蚕の作業スペースとして活用するため
4. 周辺の森林資源を保護するため、少量の木材で高い天井を維持できる建築技術が求められたため

問5　中部地方などで見られる地場産業の成り立ちについて説明した次の文章の空欄にあてはまる言葉の組み合わせとして、適切なものはどれですか。「かつて、冬に雪が積もり農作業ができない（ ① ）の農家にとって、手作業で行う工業製品の生産は貴重な（ ② ）であった。この時、都市部と比較して（ ③ ）ことが、生産拠点が広がる大きな要因となった。」（2018年 群馬県公立入試 類似）

1. ①農繁期 ②副業 ③原料が豊富である
2. ①農繁期 ②本業 ③賃金が高い
3. ①農閑期 ②副業 ③賃金が安い
4. ①農閑期 ②本業 ③消費地に近い

問6　愛知県の工業の特色について、製造品出荷額の構成比のデータから読み取れる傾向として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 鳥取県公立入試 類似）

1. 石油・石炭製品や化学工業といった重化学工業の割合が最も高く、臨海部にコンビナートが形成されている。
2. 広大な農地を背景に、食料品工業が製造品出荷額の第1位を占めている。
3. 特定の産業に偏ることなく、金属、機械、繊維などがバランスよく生産されている。
4. 自動車を中心とした輸送用機械の割合が圧倒的に高く、出荷額全体の5割を超えている。

問7　富山市では、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを進めるために「富山ライトレール」が導入されました。この路線の利用者について、以前の移動手段を調査した統計では、かつてのJR富山港線を利用していた層は約46.8%に留まっています。この統計から読み取れる利用者の傾向として、適切な説明はどれですか。（2016年 長野県公立入試 類似）

1. かつてのJR富山港線を利用していなかった人が、自家用車からの乗り換えや新規の移動手段として、全体の3割以上も利用するようになった。
2. 以前からJR富山港線を利用していた層が利用者の大半を占めており、自家用車から鉄道への乗り換えはほとんど見られない。
3. JR富山港線の廃止に伴い以前の利用者がいなくなったため、現在は主に自転車や徒歩で移動していた層が中心となって利用している。
4. 新規の利用者は存在せず、以前からバスを利用していた層がすべて鉄道利用に切り替わったことで利用者が維持されている。

問8　渥美半島の農業の特色について述べた文として、正しいものはどれですか。（2026年 富山県公立入試 類似）

1. 広大な平野部と水資源を生かして稲作の単作地帯となっており、日本有数の米の出荷額を誇っている。
2. 豊川用水の整備や温暖な気候を生かし、温室やビニールハウスを用いた施設園芸農業が発達している。
3. 大規模な港湾整備によって、生産した農産物を海外へ輸出することに特化した「企業的な農業」が行われている。
4. 夏でも涼しい気候を生かし、キャベツやレタスなどの高原野菜を都市部に向けて出荷する促成栽培が盛んである。

問9　中部地方の地形的特徴について述べた次の文のうち、フォッサマグナに関する説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 岩手県公立入試 類似）

1. 飛騨山脈、木曽山脈、赤石山脈からなる、標高3000m級の険しい山々が連なる地域。
2. プレートの沈み込みによって太平洋側に形成された、水深が非常に深い海底の溝。
3. 新潟県から静岡県にかけて本州を南北に分断するように位置し、地質学的な境界となっている地帯。
4. 関東地方から九州地方にかけて、日本列島を東西に長く貫いている巨大な断層。

問10　静岡県の太平洋沿岸部の気候特色である「冬の気温が高い」ことや「日照時間が長い」ことを生かして、この地域で古くから盛んに行われてきた産業の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

1. 茶の栽培や、温暖な気候を利用したビニールハウスによる施設園芸農業
2. 豊富な雪解け水を利用した、大規模な水田単作による稲作
3. 冷涼な気候に適した、キャベツやハクサイなどの高原野菜の栽培
4. 乾燥した気候に適した、小麦やライ麦の広大な農地での栽培

問11　2014年の工業統計において、愛知県と静岡県の製造品出荷額の内訳を確認すると、ある共通の工業部門が非常に高い割合を示しています。特に愛知県では県全体の出荷額の約半分を占めるこの工業部門の名称として、正しいものはどれですか。（2017年 奈良県公立入試 類似）

1. 電子部品・デバイス工業
2. 繊維工業
3. 輸送用機械器具製造業
4. 金属製品製造業

答え合わせ・解説

問1	答え 2 冬に吹く湿った北西の季節風が、日本海上で水蒸気を補給し、山脈にぶつかって上昇気流を発生させるため。	日本海側の気候では、季節風が最も重要な要因となります。冬、シベリア高気圧から吹き出す冷たく乾燥した北西の季節風は、日本海を渡る際に暖流の対馬海流から大量の水蒸気を取り込みます。この湿った空気が日本列島の脊梁山脈（鳥海山や越後山脈など）にぶつかって上昇することで雲が発達し、日本海側に雪や雨をもたらします。一方、山を越えた後の風は乾燥するため、太平洋側では冬に晴天が多くなります。
問2	答え 4 第二次世界大戦中に大都市から工場が疎開してきたことを契機に、高度な加工技術が地域に根付いた。	諏訪盆地では、明治時代から製糸業が発展しており、手先の器用な労働力が豊富に存在していました。第二次世界大戦中、空襲を避けるために都市部の時計工場などがこの地へ疎開してきたことで、精密な加工技術が導入されました。戦後はその技術と、部品の洗浄に適した清浄な水や空気といった環境条件が合致し、精密機械工業が地域の基幹産業となりました。
問3	答え 2 福井から北東へ向かうと金沢、富山の順に県庁所在地を通り、その後、内陸の長野へ至る。	北陸地方の主要都市は日本海沿いに位置しており、北陸新幹線はこれらを結ぶように走っています。福井県から石川県（金沢）、富山県（富山）までは日本海側の海岸線に沿うような形で北東に進みます。その後、新潟県の糸魚川などを経て南下し、内陸県である長野県の県庁所在地、長野駅へと接続します。地理的な位置関係としては、西から「福井→金沢→富山→長野」の順となることを理解しておく必要があります。
問4	答え 3 冬の豪雪による雪の重みを逃がしやすくするとともに、屋根裏を養蚕の作業スペースとして活用するため	岐阜県の山間部は日本有数の豪雪地帯であり、湿った重い雪が屋根に積もって家屋が倒壊するのを防ぐために、屋根に急な傾斜がつけられました。また、かつてこの地域で盛んだった養蚕（カイコの飼育）を行う場所を確保するため、広い屋根裏空間が作られ、多層構造の住居となっているのが特徴です。これは気候条件と生活の知恵が結びついた文化遺産といえます。
問5	答え 3 ①農閑期 ②副業 ③賃金が安い	日本の多くの地場産業は、農作業が休みになる農閑期に、現金収入を得るための副業として始まりました。特に労働力として農家の人々を雇う際、賃金が安く抑えられたことが、その地域で産業が定着し、発展する重要な条件となりました。原料の豊富さや消費地への近さではなく、労働力の質と価格が発展の鍵となった事例です。
問6	答え 4 自動車を中心とした輸送用機械の割合が圧倒的に高く、出荷額全体の5割を超えている。	愛知県は日本最大の工業県ですが、その中身は輸送用機械に強く特化しています。統計によれば輸送用機械が約53.5%を占めており、一つの品目が過半数を超えるのは、石油製品が中心となる千葉県や食料品が中心となる北海道・鳥取県などと比較しても、製造規模・シェアともに際立った特徴といえます。
問7	答え 1 かつてのJR富山港線を利用していなかった人が、自家用車からの乗り換えや新規の移動手段として、全体の3割以上も利用するようになった。	富山ライトレールの開業は、路面電車の利便性を活かして自家用車への過度な依存を抑える狙いがありました。実際の利用者の内訳を見ると、旧JR時代の利用者は半分以下であり、以前は自家用車を使っていた層（11.5%）や、新たにその区間を移動するようになった「新規」の層（20.5%）が合わせて3割を超えています。このように、JR富山港線を利用していなかった層を新たに取り込むことに成功した点が、交通政策上の大きな特徴です。
問8	答え 2 豊川用水の整備や温暖な気候を生かし、温室やビニールハウスを用いた施設園芸農業が発達している。	渥美半島は愛知県南部に位置し、温暖な気候に恵まれています。豊川用水の完成後は、その水を活用して温室などの施設を用いた施設園芸農業が広まりました。キャベツなどの露地野菜の栽培も盛んですが、高原野菜の栽培（冷涼な気候を利用）とは条件が異なります。また、稲作中心ではなく、野菜や花の栽培に特化した地域です。
問9	答え 3 新潟県から静岡県にかけて本州を南北に分断するように位置し、地質学的な境界となっている地帯。	フォッサマグナは、中部地方を中心に本州を縦断する帯状の地帯を指します。よく混同される「中央構造線」は、関東から九州までを東西に貫く日本最大級の断層であり、南北に走るフォッサマグナとは方向や役割が異なります。この地帯を境に、日本の地質構造は大きく東と西に分かれています。
問10	答え 1 茶の栽培や、温暖な気候を利用したビニールハウスによる施設園芸農業	太平洋側の温暖な気候と水はけの良い傾斜地などの地形は、茶の栽培に非常に適しています。また、冬でも日照時間が長く温暖であるため、ビニールハウスなどを使って野菜や花を育てる施設園芸農業も盛んです。一方、高原野菜は中央高地（長野県など）の冷涼な気候を利用したものであり、稲作の単作地帯は主に日本海側に見られます。
問11	答え 3 輸送用機械器具製造業	中部地方、とりわけ東海地方の工業は、自動車や鉄道車両、船舶などの製造を指す「輸送用機械器具製造業」が中心です。愛知県の豊田市を中心とした自動車産業や、静岡県での二輪車・自動車部品の生産が盛んであり、製造品出荷額において他部門を圧倒する規模を誇ります。このため、日本の工業地帯・地域の中でも中京工業地帯や東海工業地域は高い出荷額を維持しています。